

臨身

ずれも有害だが、東京電力も国も、この問題を放置している。

の駆除剤にも使われ、人間が吸い込むと、吐き気や下痢などの症状で検出されている問題で、福島県は五日までに、今年秋に収穫され

福島県では昨年十月、米の抽出検査を終え、佐藤雄平知事が安必要と判断した。

万円の機器が県内に百

雨ニモ ヲケズ

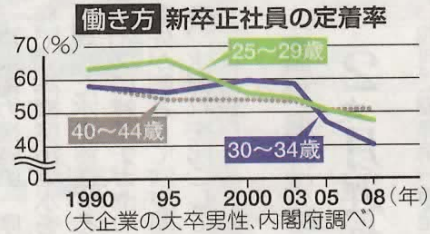
3.11から

5

共有生活する若者

東京都品川区の住宅街にある三階建ての一軒家。約四年前、若者四人が、この家をシェア(共有)し始めた。二〇〇七年十二月、

地(宅)が熱弁をふるった。小沼は大学卒業後、青年海外協力隊でシリアに滞在。「ビジネスと非営利分野をつなぐ仕事をしたい」と意欲をたぎらせ帰国した。だが、先に社会に出た同級生の目には、輝きを感じられなかった。二十代半ば。学生の時の夢と現実のずれを感じ始める時でもあった。商社で二年目だった向江一将(一)、政府系機関で働く中山慎太郎(二)、政府系金融に勤める桑名基典(三)も同じように閉塞感を持つていた。三人は小沼の提案にうなずいた。四人は、若者が出会った。同期三人を前に小沼大



会社に頼る時代過ぎた 刺激を生かしあう

「情熱を冷めさせない魔法瓶のような場所をつくらないか」二〇〇七年十二月、同居屋で久しぶりに顔を合わせた一橋大の体育会テニス部OBの同期三人を前に小沼大



共用リビングで語り合う小沼大地さん(中)と向江一将さん(左)＝東京都品川区で(木口慎子撮影)

時には近くのファミリーレストランで語り合った。ひと昔前なら「コンパス」がなくても、会社の同僚との居酒屋談話で足りていたかもしれない。だが終身雇用を軸とする日本型雇用は崩れ、会社に頼る時代は過ぎた。従来、職場が果たしてきた役割を補う場が必要になる。「コンパス」は、メンバーが信頼できる友人を誘う紹介制で仲間を

なども手掛けている。桑名が昨秋、戻ってきた。「3・11」後、それぞれが、それぞれの場で責務を果たさなければ」と思い、宮サルトント会社を退職。企業の社員を途上国に派遣する仲介をするNPOを立ち上げた。退職した日は偶然にも三月十一日。運命的なものを感じた。向江と中山は今勤めている組織の力を生かし、休目になると「コンパス」の仲間が集まってきたいと考える。一方、桑名は「コンパス」の始動から一年ここで、空間と思いを共有し、今も変わらな

「コンパス」は、メンバーが信頼できる友人を誘う紹介制で仲間を

きょうの紙面

大震災関連ニュース

- ② 震度5弱以上68回
- ④ 被災松で地蔵作り
- ②③ 双葉町長の手記
- ⑤ 柏の清掃工場停止

一般ニュース

- 総合 2・3
- 企業トップが見る景気
- 総合 6
- 山岡氏「ユーロ破綻」
- スポーツ・社会 17・24
- 大学サッカー専大V

サッカーの全日本大学選手権